長期留学体験談（ドイツ語圏）

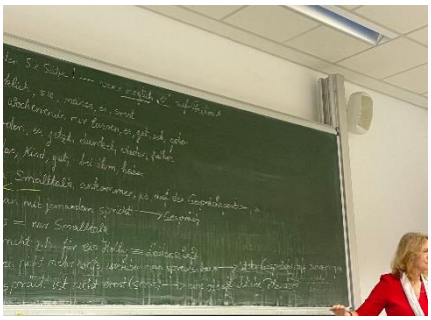
2023 年度　ヴュルツブルク大学（ドイツ）

E.T.(国際交流学科　2023(R5)年度留学)

私は、ドイツの大学に交換留学生として約 7 か月間留学をしていました。留学の目的は、語学能力の向上及び海外での生活習慣や文化を学び、異文化コミュニケーションを図ることでした。様々な国からきた海外留学生と共に学びあう中で、ドイツ語の他、英語や韓国語での日常会話ができるようになりました。それによりドイツ国内で、問題なく日常生活を送ることができました。

私が留学中に最も困難だったことは、自身の大学の交換留学生として、6 年ぶりに渡独を目指したことから、学内に留学のノウハウを熟知した方が誰もおらず、すべての手続きを一人で行わなければならなかったことです。特に、言語が流暢でない当初に、入国後の学生ヴィザ習得や住民登録、ドイツ特有の保険制度の手続きが本当に大変でした。私はこの困難を同じ寮の外国人留学生や徐々に仲良くなった友人に相談したり、また同じ街に住む社会人の日本人や日本人家族の方と交流する機会を持ち、情報をもらったりすることで乗り越えました。

この経験から、私は自発的・主体的に行動することで、困難から抜け出し、より良い結果につながるということを学びました。また、外国人の友人たちと親しい関係を築くことができ、日本では得られないような学びや新しい発見を得ました。また，知人がひとりもいない海外で生活したことで、精神的にたくましくなった部分も大きかったです。帰国後も，頻繁に連絡を取り合えるような関係の友人ができたことは，私にとって良い経験です。



2020 年度　ボン大学（ドイツ）

S.T.(史学科　2020(R2)年度留学)

私の留学は常に困難の連続でした。ドイツに着いてすぐに、ドイツでコロナウイルス感染者が爆発的に増え始め、すぐにオンライン授業に変わりました。その後もロックダウンや、留学プログラムの中止、クリスマスマーケットの中止など自分の想像していた留学とは大きくかけ離れていったものになりました。

しかしそんな中でも、帰国せず残った留学生や、ドイツで出会った友人たちなどとたくさんの楽しい思い出を作ることができました。知り合いがほとんどいなかったので、積極的になれたのがよかっ

たのかなと思います。そしてオンライン授業になって時間ができたので、ドイツでアルバイトにもチャレンジすることができました。授業時間以外でも、ドイツ人の友人と、またドイツ人のお客さんとたくさん話す機会ができたのでドイツ語を上達させることができました。留学がコロナウイルスの影響で思い通りにならなかったからこそ、もっと意味のある留学にしたい、何か色々チャレンジしてみたいと思い、実行することができました。

全ての授業がオンライン授業であったため、実際にクラスでクラスメイトと授業を受けることができませんでした。しかし、充分にドイツ語を学ぶことができました。通学時間がかからない分、予習・復習に力を入れ、ドイツ語の試験などにもチャレンジすることができました。

夏の数ヶ月は国境が開いていたので、オランダに旅行することができました。またバイエルンに旅行し長年の夢であったノイシュヴァンシュタイン城を訪れたのも良い思い出です。

このコロナ禍で留学を無事行うことができたこと、たくさんの友人に出会えたこと、いろいろなことにチャレンジできたこと、今回の留学で私は自分に自信を持つことができました。そしてチャレンジすることの大切さを改めて感じることができました。あの時、帰国か留学続行か選択しなくてはならなかった辛い時間は無駄ではなかったなと思います。あのとき留学続行を選択した自分、そして、私のこの選択を尊重してくれた両親、国際センターに感謝したいと思います。

2019 年度　ボン大学（ドイツ）

M.Y.(史学科　2019(R 元)年度留学)

私はヨーロッパに行ったことも留学経験もありませんでしたので、はじめはとても不安でした。言葉が通じずに誰かに助けてもらわざるを得ない瞬間が何度もありましたが、ボン大学では手続き等に関して手厚いフォローがあり、いろいろな人に助けていただきながら留学生活を送ることができました。またボン大学では、日本語学科の学生はとても意欲的に日本語を学んでいて、ほとんどの人がお互いの言語を教え合うタンデムを行っており、私も活用していました。また日本語学科でなくても日本語を意欲的に学びながらかつ母語でないドイツ語もとても流ちょうに話す学生もいて私の目標となりました。日本とは全く違う環境で自分と向き合うことができた留学となりました。

2018 年度　ボン大学（ドイツ）

S.M.(日本語日本文学科　2018(H30)年度留学)

　留学するということは、大学に入学してから頭のどこかに必ずあった。でも、それは私にとって大きな変化でずっと踏み出せずにいた。二年生の夏私は友達と短期留学に参加し、初めて海外に住むという経験をした。毎日が新鮮でとても刺激的だった。それと同時に、留学をとても身近に感じた。もともと寮生活をしていたのもあり、日本に住むことと海外に住むことの違いは私にとって大きなものではなかったのだ。帰国してから留学について真剣に考えた。どこに行くか、何年行くのか、いつ行くのか。先生にも親にも友達にもたくさん相談した。でも決めたのは私だ。本来なら三年に行くつもりだったが、履修の都合上断念した。入学当初私は国際交流学科に興味があった。しかし日本語日本文学科の教授法の授業をとり、日本語を外国人に教えるという新たな切り口から日本語を見ることに面白みを感じた。ボン大学は日本語学科もあるのでそんな私に適していた。

2018 年度　ボン大学（ドイツ）

M.K.(史学科　2018(H30)年度留学)

　ドイツ語は第二外国語で習った程度の実力で行きましたが、授業では私はとても苦労しました。私の場合、周りはドイツ語学科など自分よりもできる人ばかりで、毎日刺激ばかりの日々でした。当たり前ですが、授業も教科書もテストの問題文も全てドイツ語で、日本語でドイツ語を学ぶのとは全く違いました。例えば、先生から聞かれたことが分からなかった時に質問したくても言葉にすることが難しかったです。今まで、何となくこなせてきたことも、言葉が分からないと本当に何もできず、人

生の中で一番歯がゆく悔しい思いをしました。でも、これは私にとってとてもいい経験だったと心の底から思います。